

戦後70年、恒久平和の実現へ誓い新た



4月4日、小塚公園慰霊塔前広場で「旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式」が行われ、全国から遺族や元隊員など約400人が参列しました。

式典では来賓による式辞の後、参列者による献花に続いて遺書朗読、生存者による「同期の桜」の合唱が行われました。また平和の花束2014「平和へのメッセージ」で最優秀賞を受賞した鹿屋東中学校2年生の川崎萌子さんが「戦争経験者の祖父から受け継いだ命を大事にしたい」と述べました。

参加者は時折涙ぐみながら戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和の誓いを新たにしていました。

高須中学校を第一鹿屋・大始良中学校に統合



4月6日、第一鹿屋中学校体育館で第一鹿屋中学校と高須中学校の統合記念式典が開催され、高須小学校校区に住む生徒16人が新たな中学校生活をスタートさせました。

また迎える側の第一鹿屋中学校の生徒たちも、新たな仲間との学校生活に期待を寄せている様子でした。



4月6日、大始良中学校体育館で高須中学校と大始良中学校の統合セレモニーが開催され、浜田小学校校区に住む新一年生2人が新たな中学校生活をスタートさせました。

式では生徒代表の東俊太郎君が「新たな大始良中学校の歴史を作りたい」と抱負を述べました。



かのやばら園の記念切手を発売

4月24日、記念切手発売にあわせて日本郵便の職員が市役所を表敬訪問しました。

この切手は「かのやばら祭り2015春」の開催を記念して発売されたもの。四元忠則重富郵便局長は「バラのデザインが美しく結婚式の返信用などに最適です」と話しました。

切手は市内の郵便局で1,000シート限定で販売されています。

6次産業化の拠点施設が完成



4月16日、串良町細山田の大隅加工技術研究センターでオープニング式典が行われ、関係者約200人が完成を祝いました。この施設は、素材提供型農業から高付加価値型農業への展開を図るために、県が約27億円をかけて整備した。野菜の加工・流通技術の研究や新商品の試作等を支援する拠点施設となり、希望者は有料で機器を利用することができま

新鮮な魚を移動販売



4月19日、鹿屋市漁業協同組合で移動販売車のお披露目会が行われました。

これは、同組合が古江の港で水揚げされる新鮮な養殖カンパチ等の水産物を山間部などで販売する目的で導入したもの。

車体には一目で魚の販売車と分かるようにカンパチのイラストも大きく描かれています。今後、販売促進への効果が期待されています。

新社会人としての決意新たに



4月10日、鹿屋商工会議所で中小企業の合同入社式が行われ、製造業やサービス業など市内20企業から86人の新入社員が出席。

新入社員を代表して(株)つき苑の桑鶴悠衣さんが「一日も早く会社に貢献できるように、精一杯努力していきたい」と抱負を述べると、参加した新入社員は、引き締まった表情で決意を新たにしました。

高齢者の買い物支援



4月9日、小薄町公民館で「ドライブサロン事業開始式」が行われました。

これは社会福祉協議会と桜町学園が協働で小型バスを運行し、有武、高牧、小薄の3地区の高齢者の買い物支援や安否確認、閉じこもり防止などに役立てることを目的に行われるもの。

式典後、早速バスの運行が行われ、利用者は買い物を楽しんでいました。

子牛36頭が元気に入牧



4月22日、春の入牧が市営鳴之尾牧場で行われ、生後6か月〜12か月齢の乳用牛の子牛36頭が緑豊かな牧草地に放牧されました。

天候にも恵まれた入牧式には、授業の一環で鹿屋農業高校生14人も参加。慣れた手つきで子牛の世話や検査に協力していました。放牧期間は1年〜1年半ほどで、受胎後、分娩の2〜3か月前に各酪農家に里帰りします。

高齢者の生活に役立てて



4月10日、市役所で「在宅高齢者用踏み台贈呈式」が行われ、鹿屋建具木工組合から市に踏み台45台が寄贈されました。

これは、足腰の弱い高齢者に玄関や風呂場などでの転倒防止に役立ててもらおうと、平成13年度から同組合が行っているもの。

田尻哲也組合長は、「高齢者の皆さんの日々の安心した生活に役立ててもらいたい」と話していました。